

行動の意味を考えること

介護老人保健施設での実習初日、利用者さんと一緒にお話しさせていただいていた時のことだった。パシッという音がし、そちらへ目をやると、ある認知症の利用者A氏が険しい顔つきではかの利用者さんの頭を叩いたようだった。幸い、ほかの看護師さんがその現場を見てくださっていたことや、その利用者さんにもけがはなかったことで、その件は大ごとになることはなく、その場限りの事態に終わった。大ごとにならなかったことに安堵した私に、一緒に話していた利用者さんは、「あの人は、よく、勝手に人の部屋に入ったりして職員さんを困らせているのよ。いつも険しい顔をしているし、怖い人ね。」と教えてくださった。私は、A氏のことが気になり、カルテを見ると、A氏は、ほかの利用者さんに暴力をふるったり、執着したりといった行動があるようだった。

実習2日目、やはり眉間にしわを寄せ、怖い顔をしてA氏は1人自分の席に腰かけていた。声をかけようか迷いながら「Aさん、今お話しさせてもらってもいいですか？」と声をかけると、A氏は少し驚いたような顔をした。しかし、昨日の様子からは想像もできないほど優しい声で「いいよ。」と答えてくださり、家で飼っている猫のこと、自慢の息子がいること、生き物が好きなことをたくさん話して聞かせてくださった。そして、ある介護士さんを指さし「あの人はね、いつもここをきれいにしてくれるとてもいい人なのよ。あの人のことは覚えられたの。でも、私は人のこと覚えられないし、ここがどこかわからない。簡単なこともできなくていつも迷惑かけてばかり。たぶん、明日、あなたのことも忘れてしまう。ごめんね。」と涙を流しながら話してくださった。私は「いいんですよ。覚えてくれようとするAさんの気持ちだけで私は嬉しいです。」とA氏の背をさすりながら声をかけると、A氏は「話を聞いてくれてありがとう。あなたのことは忘れたくないわ。」と少し笑って答えた。怖いと思っていたA氏は、本当はとてもやさしい人なのだとわかり、私はカンファレンスで今日あったことを話し、昨日の暴力も、ほかの利用者さんに対する執着も、ここがどこかわからない不安や、知らない人ばかりに囲まれた生活への寂しさからきていたのではないかということを見守る看護師さんに伝えた。

実習3日目、Aさんの席はその施設の中でも、会話の多いにぎやかな席に変わっていた。昨日までの険しそうな顔が一変、にこにこしたA氏の顔を見て私は安堵したとともに、楽し気に笑うA氏の顔がとてもうれしかった。A氏に声をかけると「昨日話した子よね。」と声をかけてくださり、A氏を含めたその席に座る方々と和気あいあいとお話しさせていただいた。

この経験は、患者さんの行動の裏にある思いを知ることの大切さを教えてくれた。患者さんの話にゆっくり耳を傾け、患者さんの思いに気づいて援助できる看護師になりたいと思う。